

平成25年10月6日

〔自分の仲間を思いやり会社〕

No. 112

10月4日「経営支援セミナー2013」を開催しました。今年も人財開発サポーターの坂本雅子先生にご講演をお願いいたしました。

「会社を強くする100の手・1000の手」人口ピラミッドの話から、高齢化人口減、お金を使う年代は誰か。手はいつでもある。打つ手を考えやった量が

結果に比例する。打つ手の質と結果の質を上げていく。社長は「ひとたらし」でなければならぬ。社員みんな共感・共鳴の発音する4.1倍の成果

を作る。勉強に行き問題に気づいた。解決策も考えた。こつやるだけでなく、3ヶ月後どうなっているか確認する。全員一丸でやる。強い会社も

つくる方法をお話して頂きました。新たにして、学び、行動し、結果を分析改善。またやる。繰り返し実践。失敗もし、成果が得られる。やった量が良結果を生む、反復する力、そして時代を見る力(先見力)が大事だと感じました。

小さな組織ほどやることを絞る。リスクも小さく、フルワークを繰り返すやりこにまじり、強いものを創り出すことが出来て思いました。

最近考えていることがあります。良い会社とは、「お客様第一主義か」「職場の仲間(社員)第一主義か」私どもは、お客様に合わせて訪問日程を休日にして、時間外にしてやることもあります。お店でもお客様に問題があっても、言わずに新しい商品に交換するケースもあります。

お客様が望むことだと、それが正しいとして合わせることもあります。売上を上げる為、お金を頂く為、お客様第一で要望も合せています。お客様に合せれば必ずどこかで犠牲となっています。職場の仲間(社員)に負担がかかっています。休日や減ったり、利益が減ったり、社員さんの育成ができてなかったりしています。逆に私自身も、土日・時間外仕事することでお客様

合せて、他にお仕事も多くやっている方になったり、ただ働きでサービスして、自分だけお客様に喜んでもらったり、自分がお客様をいつまでも担当して仕事譲らず、信頼されていると思った(後輩に譲りフォローしてあげることが、本来の役割)しています。実は、職場の仲間が、いさから可能であり、負担してもらっているからです。会社にとって「職場の仲間が第一」であり、仲間を大切に

する人達が集まる会社が良い会社だと思えます。 高林幸裕